

労働者協同組合法
成立記念作品

人は人のために働いて
支え合い、
人のために死ぬ。
結局はそれ以上でも
それ以下でもない。

これは人間の仕事である。

小倉昭和館

中村哲は問う——“働く”とは何か、“仕事”とは何か、そして“平和”とは！

1/25(木) ①11:00~ ②13:30~ ③16:00~

上映後アフタートークあり

医師中村哲の 仕事・働く ということ

語り◎室井滋 朗読◎塚本晋也

写真・映像提供◎ベヤワール会/PMS

企画・提供◎日本労働者協同組合ワーカーズユニオン・連合会センター事業団

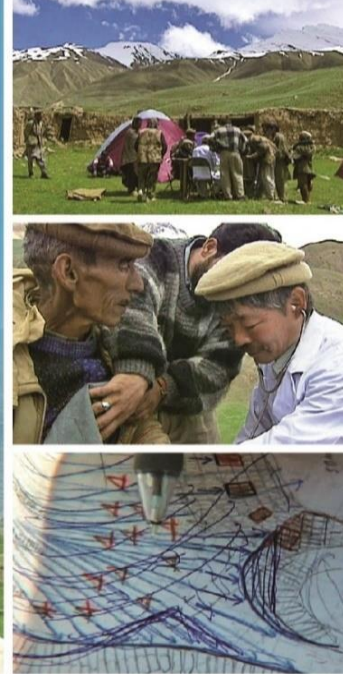
一般社団法人日本社会連帯機構

製作◎日本電波ニュース社 HD/16.9/カラー/47分



医師中村哲の
仕事・働く
ということ

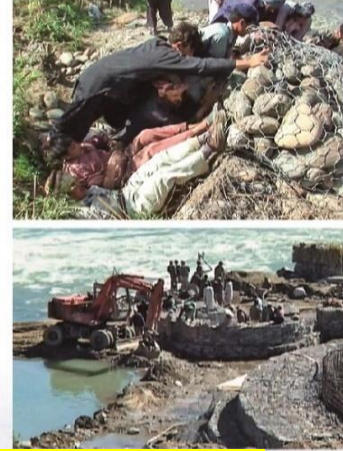
アフガニスタンとパキスタンで、
病や戦乱、そして干ばつに
苦しむ人々のために
35年にわたり
活動を続けた男がいた。



1984年に医療支援をスタートし、干ばつ対策用の用水路建設、農村復興へと活動を広げた中村哲医師、その歩みは35年に及んだ。中村医師はまず現地の言葉を覚え、現地の人々との対話を通じ、信頼を重ねていく。「私たちに確乎とした援助哲学があるわけではないが唯一譲れぬ一線は『現地の人々の立場に立ち、現地の文化や価値観を尊重し、現地のために働くこと』である」用水路建設では自ら設計図を引き、重機を運転し、泥にまみれて一緒に作業する。その作業には貧しさゆえにタリバンに参加していた農民も参加していた。「己が何のために生きているかと問うことは徒勞である。人は人のために働いて支え合い、人のために死ぬ。



そこに生じる喜怒哀楽に翻弄されながらも、結局はそれ以上でもそれ以下でもない」荒れ果てた大地は蘇り、農作物は実り、65万人の生活を支えている。
親子で収穫し、家族で食事をする風景は眩しい。
中村医師は言う「これは人間の仕事である」



「長期にわたって中村さんに密着した映像は、中村さんとの信頼の証だ。中村さんは無念の死を遂げたが、この中に生きている。」上野千鶴子氏（社会学者、東京大学名誉教授）



1/25(木) ①11:00~12:30 ②13:30~15:00 ③16:00~17:30

チケット1枚 1000円 *申込制先着 125名 **各回入れ替え制になります** 申し込み QRコード



全上映(47分)後アフタートーク テーマ[希望について]

- ① 昭和館樋口館主
- ② 河伯洞(火野葦平旧居)管理人
- ③ 子どもの居場所「ほっとのたね」

芥川賞作家の火野葦平(1907-60年)は、若松生まれ、本名、玉井勝則。両親の玉井金五郎とマンの波乱の人生を描いた小説『花と龍』が有名。中村哲先生は金五郎・マンの次女秀子の長男であり、火野は中村先生の伯父にあたる。



*** 【申込方法】下記にご記入し FAX (093-342-8253) もしくは QRコード読み取りでお申込みください ***

お名前		観覧回	<input type="checkbox"/> 1回目11:00~ <input type="checkbox"/> 2回目13:30~ <input type="checkbox"/> 3回目16:00~
お電話		メール	@

お問合せは (092-441-7587) 労協センター事業団ワーカーズコープ・センター事業団 九州沖縄事業本部
 主催：一般社団法人 日本社会連帯機構
 共催：北九州エリア医師中村哲映画実行委会・九州沖縄社会連帯機構
 後援：北九州市・北九州市教育委員会・NHK 北九州放送局・朝日新聞社・西日本新聞社
 毎日新聞西部本社・読売新聞西部本社・公立大学法人北九州市立大学
 協力：福岡県中小企業団体中央会・企業組合北九州・遠賀・中間中高年事業団 WORKERS'COOP
 社会福祉法人北九州いのちの電話・火野葦平資料の会